

やり方を変え、労働時間の削減をはかる

代表取締役 鈴木 英 介

私は以前この紙面で「サービス産業の時代が始まる」という趣旨の事を書きました。日本の人口の7割はサービス産業に従事し、世界の先進国の産業構造は一律にサービス産業化していきます。ものつくりは機械がやり、人は機械のできない頭脳労働や気働きを受け持つ時代です。

その世界で、日本のGDP（国内総生産）は今年2024年にドイツに抜かれ、世界第4位になったそうです。ずっとアメリカに続き世界第2位だったのが、以前中国に抜かれ、3位になったときは、「まあ相手は人口15億人で日本の10倍以上あるのだからしょうがな

い」と思いました。しかし今度は人口8400万人のドイツです。いくら日本が人口減少にあると言っても、1億2000万人は居ます。

なぜそんな事になっているのかと思います。日本人は仕事がなく困っているわけではありませぬ。むしろ企業は人手不足で困っています。仕事は充分あり、働けば給料がもらえます。そして皆、懸命に仕事をしているのにどうして総生産が上がらないのでしょうか。最低賃金は上がり、企業は人材獲得のため、積極的に賃上げに取り組んでいます。でもそれは大企業の話で、中小のサービス産業にまで回ってきていないとも言われており

ます。

この事は労働生産性の低さに原因があると思われまます。時間当たり労働生産性のデータを見ると、日本はOECD加盟38か国中30位だそうです。(2022.12.22 生産性本部)これはポルトガルやスロバキアとほぼ同水準です。問題なのはこれが毎年下がっていることです。昨年より順位は2つ下がっています。1人当たりで言うと31位です。ハンガリーとほぼ同じです。製造業だけをとると18位でまあまあかと思えますが、2000年には1位だった事を考えれば落ちていると言えます。

日本人は少しずつ怠け者になってきたのでしょうか。働きが悪いと言われると、意外な気が

がします。

それでは円安の影響でしょうか。この数値はドル換算なので、円が下がれば当然他国との比較が悪くなります。しかし為替の上がり下がりはその国の経済力の評価です。労働生産性が低いので円が安く、円が安いので労働生産性が低いのです。ですから必ずしも為替のせいばかりにはできません。

ここで労働生産性とは何か、改めて考えてみたいと思います。

労働生産性は労働者が生み出す価値です。賃金ではありません。この稼ぎに対して様々な費用が掛かります。時間当たりの

労働生産性とは、労働者一人が1時間にどれだけの価値を生み出しているかを表します。売上を総労働時間で割ればできます。日本は全産業平均52.3ドルだそうです。それは産業によって大きく違います。

製造業は高く、サービス産業は安いのです。その安いサービス産業が増え、製造業は外国に行っています。このサービス産業がもつと稼ぐようにならないと日本全体の経済は向上しません。日本人は時間をお金に置き換える事が苦手なのかもしれません。同じ仕事をより短時間で出来れば労働生産性は上がります。



つまり日本人は長い時間をかけて、外国と同じものを作っていると言つてよいでしょう。労働生産性が低いとはそういう事です。

私にはこれが文化の問題であるような気がします。時間をかけ、丁寧に物を作ることが美德とされていたのです。「手間隙を惜しむ」とは悪い事とされてきました。もちろん品質を良くするのは良い事ですが、やりすぎれば不必要な部分に過剰な資源を使う事になります。その「手間」は本当に必要な「手間」なのでしょう。何でも「ひと手間」をかける事が大事と言われてきたのではないですか。

今、先進国では労働時間が最も貴重な資源なのです。それは社会全体の資源です。例えばよく問題になる過剰包装の事。食品廃棄物の問題。規格に合わない商品、賞味期限の過ぎた食品を大量に捨てています。建築物

や自動車のライフサイクルの短さは以前より指摘されています。なにかがおかしいのです。これは私たちの仕事でも同様です。清掃でも、建物管理でも本当に必要な作業をやっているのでしょうか。無駄な作業はないのでしょうか。

今、ビルメンテナンスにとって何が必要なのか、そして何が不要な仕事を分別する必要があります。

時間が無限にあり、人が豊富にいたときは仕事の効率はあまり要求されなかつたと思います。人手不足の時代は今後当分続くでしょう。不要な事をやっている余裕はありません。やり方を変えなければなりません。

業務実施時間についても見直す必要があります。契約上、時間指定がある場合は、それも見直すべきです。私たちのビルメンテナンスの仕事は様々な業務

の組み合わせなので、組み合わせが合理的で、無駄がない形でなければなりません。その待ち時間は本当に意味があるのでしょうか。

また作業方法の見直しも必要です。毎日同じ仕事をやっているのと、どうしてもそれしかないものだと思いがちです。しかし、視点を変えればもつと良いやり方があるかもしれません。

今やっていることから考えるのではなく、ちよつと離れて視点を変える事が重要です。他のやり方があるのではないか。その道具で良いのか。考え直すべきです。日本人はもつと賢く稼ぐべきで、懸命に働けば良いというわけではありません。そうしないと、日本は世界からどんどん遅れていきます。

今、最も重要な経済資源は、資本でも土地でもなく人、労働時間なのです。その労働の社会全体での配分を考える時です。